

ユーザプロフィール

鹿島建設株式会社
(KAJIMA CORPORATION)

<http://www.kajima.co.jp/>

本社所在地：〒107-8388 東京都港区元赤坂1-3-1

T E L : 03-5544-1111 (代表)

創 業 : 1840年

設 立 : 1930年

資 本 金 : 814億円余

従 業 員 数 : 7,657名 (2014年3月末現在)



鹿島建設株式会社
ITソリューション部
情報基盤グループ グループ長
角川 友隆氏



鹿島建設株式会社
ITソリューション部
企画管理グループ
山本 潤氏

共通アプリケーション基盤として採用、社内システムの標準化を実現

鹿島建設株式会社(以下、鹿島)は、国内を代表する総合建設会社です。日本初の超高層ビルである霞が関ビルディングや、東京駅丸の内駅舎の復元工事など、国内外で数々のランドマークを建設。集合住宅やオフィス・商業施設、公共施設、エネルギー施設、交通施設など、幅広い分野にわたり豊富な実績を誇っています。

共通アプリケーション基盤としてのバランスの良さが魅力

鹿島の IT ソリューション部が初めて ColdFusion を導入したのは 2000 年のことでした。インターネット技術が急速に発展し、企業システムもクライアント/サーバ型システムから Web システムへの転換期を迎える中、他社に先駆けて、全社的に社内システムの基盤を見直していきました。

社内システムの Web 化に際してポイントとなったのが、バックエンドの各種システムとの連携を図ることができる Web アプリケーションサーバの選定でした。そこで同社は ColdFusion を含む 3 つのツールを比較・検討しました。コードを自動的に書き出すことができる製品は、システムの開発が容易な反面、保守性やメンテナンス性に問題があり、反対に、手作業でプログラムを書いていくとなると生産性が上がりませんし、人材の育成も必要となります。結果的に、生産性と保守性をバランスよく備えた ColdFusion が高く評価され、当時の最新バージョンである ColdFusion 4.5J を採用することになったとのことでした。

当時、導入を進めたチームのメンバーであり、現在は IT ソリューション部 情報基盤グループでグループ長を務める角川 友隆氏は「例えば、GUI ベースのツールは開発が容易な反面、ツールに依存する部分も大きく、将来にわたってずっとそのツールを使い続ける必要があります。これは継続性という意味で考えものです。実は、ColdFusion の前に別の製品を使っていたのですが、ある日突然サポートが打ち切られてしまい、肝を冷やしたことがあります。こういったリスクは避けなくてはなりません。かといって、コードを 1 から書いていくツールでは、開発の生産性に不安が残ります。その点、ColdFusion はさまざまなモジュールが用意されているため生産性が高く、メンテナンスも容易。開発したシステムを画面上ですぐ確認でき、結果がすぐわかるというメリットもあります。加えて、以前に使っていたグループウェアが ColdFusion をベースにしており、掲示板や施設予約の仕組みが簡単に構築できる点、米国でかなりのシェアを持っている＝今後の継続性も十分という点を評価しました」と語ります。

アプリケーション基盤の標準化に向けて

Web 系システムはアプリケーションの迅速な展開とメンテナンスの容易性というメリットがあります。そのため鹿島では、部門や支店がそれぞれ独自にシステムを立ち上げるようになりました。しかしこの調子でシステムが増え続けていくと、各部門に最適化されたシステムが社内に散在することになり、リソースの有効活用という意味でも、メンテナンスの手間という意味でも好ましい状態ではありません。そこで情報基盤グループでは、全社共通の開発/運用体制を整備し、一定のルールの下、社内システムを構築・運用していくという方針を打ち出しました。

こうして 2003 年から共通アプリケーション基盤を整備し、2005 年にかけて社内システムを統合しました。その結果、何か新しいシステムを構築したいというときも、1 からインフラを用意する必要がなくなり、ルールも標準化されたため、短期間でユーザーのニーズに応えられるようになりました。

ユーザーからの要望へスピーディに対応

現在では、総務、人事、財務、土木、建築、営業など約 80 の業務システムのフロントエンドで ColdFusion が活用されており、ユーザーにさまざまな情報を提供/交換する仕組みが整っています。また、社内システムを効率的に利用するためのポータルサイトにも ColdFusion が使われています。